



## 3回、集中打で逆転!

# 3年ぶり 鹿児島 決勝へ

又六鹿

### 号外



準決勝
鹿児島商 001 000 010 = 2
鹿児島 003 001 01x = 5
(商) 紺屋、坂口 野方
(鹿) 萩原 松川

第50回NHK旗争奪県選抜高校野球大会第6日は6月1日、鹿児島市の県立鴨池球場で準決勝2試合があった。

第1試合は、三回に大山雄介の左翼線二塁打などで3点を挙げて逆転した鹿児島が、終盤も好機に着実に加点して鹿児島商に競り勝ち、3年ぶりに決勝進出した。政純一郎

## 勝因は「チームのまとまり」

鹿児島が好機を着実にものにして加点し、中々萩原健太を中心にした堅守でリードを守り3年ぶりの決勝進出を決めた。信じられない様子の軸屋次郎監督だったが「自分たちは力がないチーム力がないと分かっているから逆にまとまりやすいのかも」と勝因を語った。

メンバーのうち、背番号とポジションが一致しているのは、干久萩原と遊撃手の福山智史だけ。1月に不祥事事件で上之園大悟監督が謹慎となり、指導者不在の間もあってチーム状態は決して万全ではないのだが逆境な分、チームがまとまったことが今大会の快進撃を支えている。この試合にもそれは随所に発揮された。干久萩原は「鹿商は打ってくるチームなので、バックスを信じて打たせて取る投球を心掛けた」。

直球とシフトの落差を有効に使い鹿商打線に絞らせなかった。三回に先制点を許すも、打線はその裏下位打線からしぶとくチャンスを作り、背番号20の三番大山雄介の左翼線三塁打で逆転する。春までは背番号5の三塁手だった右肩痛で一塁を守っていた。当てる上手さ、軸屋監督を買われての三番起用に見事に応え、初球の内角低めに沈む難しい変化球を思い切って引張った。六、七回にもエドランやバントをうまく絡めてチャンスを作り、貴重な追加点を奪った。チームのまとまりを發揮しての会心の勝利に軸屋監督は「これで自信をつけてくれれば」と期待を寄せていた。

